地方独立行政法人　神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター

地域医療連携室だより

2025年2月
VOL.56
登録医療機関数
966件
<2025.1現在 実数>

患者さんのご紹介について

原則として15歳中学生までのお子さんが対象になります。

神奈川県立こども医療センターは、紹介・予約制で診療をしています。患者さんをご紹介いただく場合は診療情報提供書（紹介状）をご用意ください。原則として 15 歳中学生までのお子さんが対象です。

ご紹介・ご予約方法について

地域医療連携室宛てに、診療情報提供書（紹介状）を郵送してください。
（画像 CD がある場合は同封してください）

▼

診療情報提供書（紹介状）が到着後、内容を医師が確認し、受診日を設定させていただきます。

▼

受診日が決まりましたら受診連絡票（受診日のお知らせ）を患者さんご家族と紹介元医療機関へ郵送します。

診療情報提供書の書式は自由ですが、専用ハガキ・封筒もあるのでご利用ください。
専用ハガキ・封筒が必要な場合には、お申し付けいただければ、お送りいたします。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

かながわこども医療ネット

（株）富士通 HumanBridge を利用して、こども医療センター電子カルテ情報をインターネット経由で公開する情報共有システム「かながわこども医療ネット」をご利用いただけます。診療に関わる情報をネットワーク上でリアルタイムに共有して、効率的かつ緊密な小児医療提供体制の実現を目指します。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

【当センターフォロー中の患者さんの急患受診】

まずは、かかりつけの医療機関、休日急患診療所や夜間急病センター等で受診していただき、必要に応じて**医師から当センター担当医宛に電話でご連絡ください。**医師からの連絡が難しい場合は、患者さんから直接担当医に電話連絡をして下さい。
※ 事前にご連絡をいただけない場合、受診出来ないことがありますので、ご注意ください。
※ 救急外来の診療は担当医ではなく、救急外来担当医が行う場合もあります。

【編集・発行】　地方独立行政法人 神奈川県立病院機構　神奈川県立こども医療センター　地域医療連携室
〒232-8555　神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4　TEL：045-711-2351（代）　FAX：045-710-1933
ホームページ：https://regional-medical-liaison.kcmc.jp/

薬剤科の今後の業務展開

薬剤科科長　齋木　一郎

薬剤科の業務について紹介します。

当センターでは常勤20名、非常勤3名の薬剤師に加えて、非常勤技能員3名、非常勤事務員1名が所属しています。2024年12月現在の院外処方せんの発行率は92%です。

センター業務については、処方せん調剤、注射薬の個人別セットの他に、抗がん剤混合調製業務とTPNの混合調製を行っています。薬剤科での混合調製実施率は、抗がん剤100%、TPN約40%です。

抗がん剤レジメン管理も重要な業務です。レジメンの電子カルテへの登録を順次行い、安全な化学療法実施に努めています。

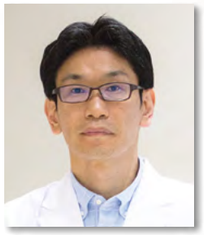
センター業務以外については、入院患者さん対象の薬剤管理指導業務を行っています。対象病棟を徐々に増やし、近年では母性病棟も対象に加え、現在は月平均130件程度実施しています。更に、一部診療科のカンファレンスに参加し、医師・看護師との情報共有を行い、今後の治療方針について協議しています。しかしながら病棟への薬剤師の常駐配置は未だに行えていません。

現在、新たに取り組んでいる業務は持参薬の確認です。当センターは難治性循環器疾患や神経疾患の患者さんが多く、10～20種類の持参薬が頻繁に持ち込まれます。しかしながら未だに確認作業の大半を病棟の看護師さんにお願いしています。入退院支援センターの拡充を今後行う方針の為、薬剤師による持参薬確認を完全実施することを目標の一つとし現在試行を開始しています。予定手術の患者さんには服用中の薬剤の休薬が必要な場合があります。薬剤師から主科の医師へ情報提供することで術前中止薬の見落としを防ぎ、手術が中止となる事例を防止しています。また、入院前面談を入院決定時と入院日の2回行い、併診科やかかりつけ医から追加処方があった事例に対応しています。

小児の処方は、薬剤の記載が製剤量と成分量のどちらなのか、また1回量か1日量なのか判断に苦慮するケースが多く有ります。インシデントを事前に防止する為にも、薬剤師によるチェックが多職種から望まれています。

将来は、各病棟への常駐配置や手術室、集中治療室への薬剤師の常駐配置を行い、入院時から退院時までの薬剤管理、服薬指導、及び退院後の地域の医療機関や調剤薬局との連携の強化を進め、患者さんの薬物治療のための貢献をしていきたいと考えています。

地元に根差した小児がん拠点病院のハブとして



血液・腫瘍科部長　**柳町　昌克**

小児がん（白血病や脳腫瘍など）は神奈川県全体で1年間で100人くらいしか発症しない希少疾患です。稀な疾患ですが、いつか皆様の医療機関を受診することがある疾患です。しかも最初の症状が発熱や頭痛など非特異的なものが多く、すぐに小児がんが鑑別に上がることは少ないと思います。一方で腹部膨満などで小児がんを疑った（気づくことができた）段階では、かなり病気が進行していることもしばしば経験します。でも、そこからの迅速な対応で完治が期待できるのが「小児がん」です。疑った時点で、どうぞ遠慮なくお電話でご相談ください。紹介状を郵送していただく時間がもったいないです。当院は全国に15か所指定されている小児がん拠点病院として病理診断、放射線診断・治療、外科治療、内科治療、患者・家族支援のスペシャリストが揃っています。血液・腫瘍科は小児がん診療の院内連携のハブとしての役割を担っていますので、腫瘍を疑い相談する診療科に迷った時なども、是非、お気軽に当科にご相談ください。また、良性血液疾患（貧血や血友病など）の診療も経験豊富です。これからも地域に根差した小児がん診療、血液疾患の診療を行ってまいります。

循環器内科診療のご案内

副院長兼循環器内科科長　**上田　秀明**

循環器内科は、生まれながらの心臓病とよばれる先天性心疾患の他に、心臓の筋肉（心筋）の疾患である心筋症、弁などが問題となる弁膜症など、さまざまな心臓病を扱っています。

当院の強みは、豊富な胎児診断症例の経験に基づき一例、一例を丁寧に、最終的なゴールの手術方法を決定して管理することにあります。胎児診断された心疾患の新生児手術症例がもっとも多い施設でもあります。NICU、心臓血管外科、麻酔科、集中治療科、手術室、PICU、病棟と連絡を密にとりながら、お子様にとって最適で、かつ優しい医療の提供に努めております。

また心房中隔欠損や動脈管開存など様々な疾患に対するカテーテル治療にも力を入れており、多くの実績がございます。

同じ心臓病、同じ病名と言っても、個性があるように、人によって全く違います。最適な内科治療、外科治療など、より良い医療を心掛けて参りますが、質問などがございましたら、どうかお気軽に当院のスタッフにお声掛け下さい。

形成外科のトピックスと新しい取り組み

形成外科部長　**小林　眞司**

形成外科部長の小林です。1992年に手術助手として当センターに着任して以来、横浜市立大学救命救急/熱傷センターを経て1997年に着任し3代目の部長として勤務しています。

当科では小児形成外科の中でも口唇口蓋裂・頭蓋縫合早期癒合症などの頭蓋顎顔面分野を得意にしており、県内だけでなく県外からも患者さんが来院されます。口唇口蓋裂の患者さんには、関連各科と連携した集学的治療により全国的にも類をみない独自のシステムを確立し、少ない手術回数で良い結果が得られています。キーワードは「術前顎矯正プレート」、「ファロー法による口蓋形成術」、「再生医療法下の多血小板血漿移植術」などがあります。これらの治療を行うためには、なるべく早く（生後2週間以内頃）に来院して頂くと効果的であり、啓蒙活動や出生前診断にも力を入れています。また、クルーゾン症候群など頭蓋縫合早期癒合症の患者さんには、当科で開発した角度可変型頭蓋骨延長装置とハイブリッド型顔面骨延長装置を用いることにより手術回数の軽減と質の高い治療に寄与しています。

手術は4日/週で行っていますが、この20年間で手術件数が倍増しただけでなく複雑かつ困難な症例が増加し、現在の人員では対応が困難になり手術までの期間や外来の待ち時間が長びいてご迷惑をおかけすることが多くなっています。安心・安全な医療を提供するために病院全体での取り組みだけでなく、外科系医師の負担軽減が急務となっているところですが、今後も形成外科一同、質の高い治療を提供していく所存です。

遺伝科の取り組み

遺伝科科長　**黒田　友紀子**

遺伝科では、染色体異常症、遺伝性疾患の診断のための遺伝学的検査、遺伝学的診断のもと疾患管理と遺伝カウンセリングを行っています。先天異常は出生児の5%に認められます。知的発達症、発達遅滞、その他の先天異常を合併する先天異常症候群や原因不明の知的発達症の遺伝的背景を明らかにすることは、患者さんの疾患管理、次子への遺伝カウンセリング上重要です。当科では、G-band・FISH染色体検査、マイクロアレイ染色体検査、疾患パネル解析に加えて、次世代シークエンサーを用いた網羅的遺伝子解析も行っています。これらの遺伝学的検査を適切な臨床診断のもと施行し、最終的に概ね半数の方が診断に至っています。診断後は、自然歴をもとに疾患概念、管理方針を説明し、遺伝カウンセリングも対応しています。急速に発展し続ける遺伝分野において、当科では最先端の解析技術、データ解析手法を導入して患者さんの診断に取り組んでいます。原因不明の知的発達症、先天異常症候群を疑う患者さん、遺伝カウンセリングを希望の方、遺伝学的検査の適応かどうか判断がつかない患者さんがいらっしゃいましたらぜひご紹介ください。